

事業報告書（令和 6 年度）

事業名 多様な教育の未来を描く：教育映画上映プロジェクト

団体名 私の学校準備室 Kodona 担当者名 西田 美穂

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

●第 1 回「夢みる小学校」

【日時】

2024 年 6 月 1 日（土）

[午前の部] 10：00～12：30

[午後の部] 14：00～16：30

【場所】

岡山県生涯学習センター 視聴覚室（上映・シェア会）、幼児プレイルーム（託児室）

【参加者】

大人 64 人

子ども 9 人

託児 23 人

【内容】

映画「夢みる小学校」（まほろばスタジオ製作）を上映し、希望した参加者同士で映画内容の感想等を共有するシェア会を行った。同様の内容で、午前の部と午後の部の 2 回行った。



●第2回「夢みる校長先生」

【日時】

2024年8月3日(土)

[午前の部] 10:00~12:30 [午後の部] 14:00~16:30

【場所】

岡山県生涯学習センター 視聴覚室(上映・講演)、幼児プレイルーム(託児室)

【参加者】

大人 94人

子ども 13人

託児 26人

【内容】

映画「夢みる校長先生」(まほろばスタジオ 製作)を上映した。特別ゲストとして、本映画に出演された西郷孝彦氏をお招きし、ご講演いただいた。同様の内容で、午前の部と午後の部の2回行った。



●第 3 回「みんなの学校」

【日時】

2024 年 10 月 12 日(土)

[午前の部] 10:00~12:30

[午後の部] 14:00~16:30

【場所】

岡山市吉備公民館 実技室 (上映・シェア会)、第 2 講座室 (託児室)

【参加者】

大人 57 人

子ども 9 人

託児 23 人

【内容】

映画「みんなの学校」(関西テレビ放送 製作)を上映し、希望した参加者同士で映画内容の感想等を共有するシェア会を行った。同様の内容で、午前の部と午後の部の 2 回行った。



●第4回「夢みる小学校完結編」

【日時】

2025年2月24日(月祝) 16:30~19:00

【場所】

岡山市吉備公民館 実技室(上映・シェア会)、第2研修室(託児室)

【参加者】

大人 46人

子ども 6人

託児 9人

【内容】

映画「夢みる小学校 完結編」(まほろばスタジオ製作)を上映し、希望した参加者同士で映画内容の感想等を共有するシェア会を行った。



2. ESDの視点

① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

- ・運営に関わる人同士：開催目的やイベント内容の議論を通して、教育課題についてより深く認識することができた。また、運営スタッフも映画を鑑賞し、シェア会に参加することで多くの方との知見を共有することができた。
- ・連携する人や団体：学校教員や教育行政に関わる方など、教育に携わっている方にも多数ご来場いただくことができ、教育問題について共有することができた。また、課題解決のためのネットワーク(つながり)をつくることができた。
- ・参加者同士：映画上映後のシェア会(希望者)での交流により、個々人の教育についての思いや知見・経験などを共有することで、参加者それぞれに学びを生むことができた。

② どのように学び合いを取り入れたか

映画上映後のシェア会(希望者)では、4~5名程度のグループをつくり、映画の感想や自身が感じている教育課題などについて話してもらう形で行った。

③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

映画上映前後で Kodona 代表の西田から、本イベントの趣旨等の話を行うことで、参加者と教育問題についての意識の共有を図った。

映画の感想等のアンケートを記入いただくことで、参加者自身が本イベントを通じて得たことを整理できるようにした（ふりかえり）。また、アンケート内容を HP にアップすることで、参加者のみなさんと共有できるようにした。

第2回では、本映画に出演された西郷孝彦氏をお招きし、ご講演いただいただくことで、学校現場からの視点を共有できるようにした。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

成果として、参加者アンケートの一部をご紹介します。

~~*~*~*~*~*~*~*~*

---第1回「夢みる小学校」---

◎あらためて、「学校とは何か」を考えさせられる映画でした。「問を発する」ことの大切さ、あるいはそうすることのできる子供を育てることができている学校 —今の学校にはその機能が年々衰えていると感じます。教育の再生の突破口が確かにここにあると思いました。PS この映画会にこれだけの人が集まっていたことにも希望を感じました。

◎『夢みる小学校』をきっかけに「きのくに子どもの村」について知りました。知った当初は、子どもに全てを任せるなんて危ない、礼儀や社会性を学ばずに将来、社会に出た際に困ることが多々あるのではないかと、批判的に捉えていました。しかし、今日の上映会を通して、その考えは間違っていたのではないかと感じました。プロジェクトと呼ばれる活動では、その活動や経験そのものが学習につながるのだと知りました。活動を通していわゆる教科への興味関心、知識につながる。「そもそも活動には教科の知識が必要、教科の学習があってこそその体験学習」と考えていたけれど、もしかしたらその考えは必ずしもそうではないかもしれないと感じました。この上映会を通して、今までの考えが変わり、新たな視点を得ことができました。

◎私が特に心に残ったのは「子どもファーストの考え方」である。普通の学校では先生がルールになることが多いと思う。しかし、この学校ではそうではない。子どもと大人は同じ一票であり、大人の「こうしたほうが良い」が投票により不採用になることもある。このことによって、子どもが子どもらしくいられる環境づくりや、自分を受け入れてくれる安心感、好きなことをできる喜びを得ることができると考えた。どんな子どもも個性として受け入れ、子どもが夢中になれることに対して否定せず支えることが大事だと考えた。私自身、子どもの「これ好き!」「楽しい!」をもっと高められる教員になりたい。

◎堀さんがきのくに子どもの村を立ち上げられたころ、一度、参加しました。あれからはや40年近く経ちますが、子どもの村はどんどん進化し、各地に広がっていついて、とても励まされています。

我が子は皆成長し、孫たち(6人)もそれぞれ地元の学校に通いながら自分の道を見つけて歩いています。教育の現場がどんどん右系化し、自由を奪われていく中、子どもたち、若者たちが悲鳴をあげているのを感じます。岡山にも希望をもてる夢みる園や学校が手づくりでふえていくことを(あきらめずに!)応援していきたいと思います。

◎息子が不登校、発達障害の発覚と、日々不安の中で過ごしてきていました。色んな情報が飛びかう中で、まだ、周りと同じ様にしなければ、学校くらいは行かなければ、という考えが私の中で、はがしきれていませんでした。

この映画に出ている子ども達の表情・話し方、笑顔がとっても穏やかで素敵でした。

堀さんが言われた「発達障害は一つの個性、世界を変えたのは発達障害の人ばかりだ」という言葉が心にすっと入ってきて安心しましたし、感動しました。私にも何かできる事を考えたいです。

◎夢みる小学校の上映、ありがとうございます。今まで保育士の仕事をふりかえっても、子育てをふり返っても、自由は、本当に子ども達を成長させます。ここに出てくる子ども達こそが、その子その子らしく、成長している姿。私ができることは...本来の子ども達の姿をとりもどすために...教育をかえたい。夢みる小学校上映で、岡山の人たち、全国の人たちの心を動かしたい。今日はありがとうございました。

◎初めて観ました。驚きました。現代の多くの学校は、子どもはほっておくと悪いことをする、なまける、という性悪説を前提にしているのだと感じました。

「もっと子どもを信じる」この映画から強いメッセージを受け取りました。

◎2022年10月に県立図書館で「夢みる小学校」を上映した者です。こうやって自主上映の輪がどんどん広がっていついてることに感動しています。

改めて映画を見て、子ども達が本来持っている力を奪わない大人を増やしていきたいなと感じました。公立の先生方にもいろいろな方がいらっしゃるの、対公立という形でなく、たくさんの方を巻き込んで新しい学校が創っていったらよいなと感じました。

◎とにかくすごいなと思いました。

破天荒な中学生(思春期)が確かに正常で、がまんして周りの目を気にして大人しい中学生の方が心配だなと思いました。小学生たちが修学旅行先を自分たちで決めて、自分たちで電話して予約やキャンセルをすること、ユーモア溢れる会がイキイキしていて、自分がいた児童会を思い出しました。岡山は校則ばかり先走り、言われたことをする子どもを作っているようにみえてしまうのが残念でなりません。

――第2回「夢みる校長先生」――

◎自分が子供の頃に通っていた学校のあり方が普通だとずっと疑問を持つこともなかったが、我が子が小学校に通うようになって、少し疑問を抱くようになった。

多種多様な子どもがいるのに、みんな「右向け右」でいいんだろうか...?

小学校はとこも閉鎖的なイメージが強かったが、「校長が大統領」ということが知れてよかった。クレームではなく、応援という形で、要望を伝えてみようと思う。

◎高校で国語を教えています。原口先生のご著書を勝手ながら授業で伝えさせていただきました。子どもが通う小学校の校長先生にも貸出中です。義務教育と高等学校とのちがい(目的など)もありますが、小中でたくましい心と体を身に付けていくことができた子どもは、高校でも多様な力を開花させていくことができるのだろーうと思いました。

「競争なくして成長なし」などという意見をいまだに耳にしますが、「昨日の自分に勝つ」という競争以外は、子どもも大人もただ疲弊していくのみだと感じられました。

◎校長先生たちが子ども中心にして、気になったことを枠を外して考え、動かれている様子に心動かされます。

西郷先生が生徒や周囲と約束しあって言葉にし、進められている様子は、この活動を見るだけで子どもも魅せられると感じます。ひとがひとに魅かれる場ができている。

◎ずっとずっと観たかった映画です。小学生、中学生...子どもの中の力を、心から信頼して、未来を創り出す人間としての「子ども」たちと共に生きる先生たち。理不尽な「制服」文化の中でイジメを受けた我が子の小1時代。思春期の性教育を誠実に語り合いたいと伝えたときに、受けつけてもらえなかった中学校 PTA... あーだから岡山は不登校、めちゃくちゃ多いのです。

でも西郷先生にリアルに会えたことは、「夢みる」岡山市民になれるパワーを頂きました。これから...の子どもたちが幸せであることを祈って、出会ういろんな人たちと話したいと思いました。終わりの代表の方のコトバのように、先生たちに、学校に、エールを贈れる市民でありたいと。

◎すてきな校長先生がたくさんいらっやって、公立校をまだまだ捨てたものではないな、と希望がもてました。

ただ、岡山の多くは管理職任期が短すぎて、校長裁量が生かしにくいし生かせない環境であることが課題です。それと、「大人の言うことはきくものだ」という考えの根強さ、子どもの権利条約、せめて、自分の身近なところにいる子どもたちにだけでも伝えていこうと思えました。

◎本日は上映会を開催して下さりありがとうございました。

コロナ禍で今の公立は子どもの人権守られてないなと感じることがあったり、映画に出てくる先生方の子どもファースト、信じる=自由=まつ 子ども観にとっても共感しました。義務ではなく権利が教えられる。1人の保護者としてできる事をコツコツと草の根で。すぐにはできなくてもあきらめる訳にはいかないなと感じられました。ありがとうございました。

◎数年前、NHKの番組で桜丘中の西郷先生のことを知ってこんな学校があるのかととても感動しました。今日は、映画だけでなくその当の校長先生のお話まで直接おききできてありがとうございました。映画の終わりに前川さんが、社会に出たら厳しい現実があるので、学校では、それに耐えられるような試練を与えておかないといけないという考えを持つ人々もいると言っていたが、変えていかなければいけないのはその社会の方で、この学校の自由なあり方を、改めてベースにしておく事が大事と思いました。

◎感動とやるせなさや怒りが一緒にやってきました。独身時代に勤めていた塾で学校に通えない子ども達と接する機会が多くあり、今は公立の学校で8年間、不登校支援員をしていますが、(映画の中の学校と)岡山の公立の小・中学校との違いに感動と怒りを覚えました(笑)

「皆同じことができる」「クラスに入れるのがあたり前」「我慢と忍耐」「学校でのつらいことに耐えられないなら、社会に出て耐えられない」と、本気で思い生徒のために厳しく接する校長先生や先生の多さに…うんざりしています。

8年間、何をしても何を伝えても変わらない現場を辞めて、自分で何かをはじめようと思っていましたが、この映画を観て、大好きな子供たちと一緒にもう少し頑張ってみようと思いました。生きるって楽しいと、悩んでいる子ども達に、これからも伝え続けていこうと改めて思いました。ありがとうございました!!!

――第3回「みんなの学校」――

◎これが本来の姿だと感じました。うちにも支援学級の子がいますが、中学生くらいになると通常学級の子達から偏見の目で見られることが多いと言っています。クラスを円滑にするために支援が必要な子を分断した結果、相互理解が進まずそのようなことが起こっていると思います。今日の子供達を見ていて、今の分断は子供の可能性を大いに奪っていると感じました。

◎これまでの学校のあり方が、このまま続いていくことはさまざまな問題を生むのだろうと思います。

ふつうであること、場を読んで同じように動くこと、だれかのせいにする事など日本人が得意なこと?は本当によいことなのか問い直したいと思いました。

◎貴重な時間をありがとうございました。私自身、自閉症の子どもを持つ母親なのですが、日々子どもとの関わりが難しく、親も子も葛藤することが多いのですが、今日の上映を見て、我が子との関わり方へのヒントが見つかった気がします。周りの子と比べるのではなく、その子にとっての目標をクリアすることが大切なんだと改めて実感しました。しっかり子どもの気持ちを聞いてあげたり、察してあげることで、子どもは理解して、成長に撃っている姿を見れたので、これからの育児に役立てていこうと思います。ありがとうございました。

◎子どもも実名で、失敗も撮影されていて勇氣ある行動だと思います。それだけの信念をもち、学校づくりをしているのでしょう。今の教育現場が向かっている特別支援教育とは真逆と感じる取り組みを見てものすごく戸惑っています。

◎大空小学校でやっている事や木村先生が言っている事は、全て正解という訳ではないと思います。でも、大空小学校には思い切って失敗したらいいという信頼感や安心感で満ちていると思いました。どんな個性を持っていようとみんなで生きていこうぜ、という熱意や想いが核心にあり、子どもたちに伝わっているからこそ、障害のある子も受け入れられるし、どんな自分も差別されないという安心感を他の子どもたちももっているから、不登校の子どもがいいるのではないかなと思いました。自分に出来ることは何か、考えながら私もやっていきたいと思っています。

——第4回「夢みる小学校 完結編」——

◎とても素晴らしい映画をありがとうございました。自分がどれほど今までの教育常識なるものにとらわれているかと感じました。こんな学校で子供を育ていきたいと、とっても思いました。成長して、しっかりと自信を持って生きる力を身につけた中学生や大学生を見れたことも良かったです。大人の自分たちにも大切なことを教わりました。時間に追われ、子供をスケジュールで追い立てるような生活は、したくないなと。子供の目が生き生きとしていました。ありがとうございました。

◎きのくにの児童生徒がほんとうにしっかりしていて、わたしの知っている現代日本の小中学生とはまるで違うと驚いた。遊具づくり、食堂、修学旅行、どれをとってもゼロから自分たちでやりあげる経験は一生の宝になるでしょう。うらやましい。我が子の子育ても家庭教育感も、もっと自由にしていきたいと思いました。よいものをみる機会を準備してくださってありがとうございました。

◎来春から公立小学校の教員をします。公立の学校でも取り入れられそうなのが多々あり、とても勉強になりました！ こんな形の「教育」もあるんだなと感じました。ありがと

うございました。

◎随所で、「本当にそう！子どもってすごい力をもってる！今、多くの学校で行われている教育は、子どもたち一人ひとりの魅力も考える力も奪っちゃっている！今の日本の教育を変えたい！」と思い、自然と涙が出ました。夢みる学校、作りたくなりました！

◎こんな学校に通ってみたかった、という思いでいっぱいです。僕は高校時代に不登校で、2年と3年は殆ど通えませんでした。ただ、不登校=いけないこと=本人が悪い、といった考え方には賛同は出来ません。結局、僕が受けた教育は、人間を鋳型にはめて合わない子どもを、不良（品）と断罪するだけの教育でした。

サイズの合わない靴を履かされて、靴擦れで足が痛い、と言っても、我慢が足りない、と取り合っても貰えない。これの何処が教育ですか。こんなところに行きたい、など思うわけでもないです。子どもたちのサイズに合った靴を探すのが、教育者のはずです。子どもは足が痛いのが辛いのではなく、足が痛いと言っても誰も話を聞いてくれないのが辛いんです。この映画には、僕が希望した教育があるような気がします。ここで紹介されているような学校が絶対に正しいとも、これ以外の学校はダメとも言いません。ただ、一人ひとりに合った教育が受けられる社会が来ることを期待しています。

◎「キミはキミのままでよい」と思える安心な自由な環境をつくること、質問がでたとき、こたえられる大人でいること、それが私たちのできることだと思いました。

......*...*...*...*

アンケートから分かる通り、本イベントは参加者の方々に教育について考えるきっかけをつくることのできる内容を提供することができたと感じています。また、教育は現場の教員だけが行うものではなく、保護者・一般市民といった様々な立場の大人が当事者として関わりことができると感じてもらうことができ、教育について更によくしようと行動する機運を高めることができたのではないかと考えています。

市内小学校の多くの児童や学校長・教員にチラシを配布したり、フリーペーパーへの掲載、SNSを活用した広報活動により、本イベントに参加いただけなかった方にも、一般的な学校以外の学校や教育活動の存在を認知いただけたと思っています。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

来年度も映画上映会を継続して行うことで、引き続き様々な立場の大人が子どもの教育について考えたり、教育や学校に主体的に関わる意識の涵養に寄与し、すべてのこどもが人権や個性を尊重された質の高い教育を受けられるよう活動を行っていきます。